**[論文]（査読）**

**CMSキャッシュ・プーリングの経済的効果と運用課題**

**福嶋幸太郎**

大阪ガスファイナンス（株）

（要旨）

キャッシュ・マネジメント・システム（以下「ＣＭＳ」という）は、グループ経営を行う企業体で、グループ全体の現預金を一元管理し、グループ各社で生じる毎日の資金過不足を調整することによって、効率的資金利用を図るシステムであり、重要な財務戦略として位置づけられている。このうち最も基本的な仕組みがキャッシュ・プーリングであるが、銀行の替りにインハウスバンクがその役割を果たし、参加会社を含めて大きな経済的効果を創出する。一方でオートマチック・キャッシュ・フローを生み出し、資金繰りの甘さを産み出す。ＣＭＳは実務を中心に発展してきたため、学術の世界では関心が薄く、理論的な分析が不十分であることから、本稿ではキャッシュ・プーリングに限定してその経済的効果と運用課題を理論的に分析し、考察することにした。